

驚いた！わたしたちの身近なごみの実態

松山清掃工場を見学。 学んだことを壁新聞 にして学校全体へ

常磐小学校4年生

小学4年生の社会科では、社会の一員として生活していくために必要なことのひとつとして、皆さんがふだん出している「ごみ」について学習します。

6月10日、松山清掃工場を訪れた常磐小の4年生8名は、工場のしくみや各家庭から出されたごみがどのように処理されているのか、資源ごみは何になるのかを工場の図面やパンフレット、ガラスを砕いてリサイクルした歩道などで使われる路面材の実物を手に取りながら学びました。児童からは、1日に集まるごみの量はどれくらいか？など、いくつかの質問も出しました。

施設の見学では、深く大きなごみのピット(可燃ごみを集める場所)をガラス越しにのぞき込み、大きなクレーンでごみを運んでいる様子に、「まるでクレーンゲームみたい」と興味津々。ごみを車に積んだまま計量できる場所では、みんなで大きな量りに乗って、全員の体重を量る体験もしました。



運転中の焼却炉制御室・クレーン操作室で熱心に説明を聞く児童たち

児童たちは「1日に44tもの燃えるごみを処理していると知りとても驚きました。ごみの処理は燃やすだけでなくリサイクルにもつながっているとわかったので、これからはごみを減らして、分別もしつかりやっていきたいです」と話します。



ごみは清掃工場でどのように処分されているのか、分別の仕方や資源ごみについて学ぶ

ごみ処理の現場で専門家に聞く

各家庭から出されるほとんどのごみは指定されている専用の袋に入れて各地区のステーションに置かれ、決まった曜日(日)になると収集車が集めていきます。私たちの出すごみはどこでどのように処分されているのでしょうか？

匠瑤市・横芝光町・多古町の3市は、この1市2町が組合を作ってお金を出し合い共同で処理をしています。その施設で働く方に話を伺いました。



環境衛生組合 鳴根さん

「増え続けるごみ」

全国的に人口は減っていますが、ごみは増えています。これは、以前は家庭から出るごみなどは庭先で燃やしていたことも多かったと思います。ところが、現在では「家庭ごみの焼却」が禁止されていますからその分がごみとして収集されるようになったということが考えられます。また、ごみステーションの数が増

「限界がある埋立地」

資源ごみとして出されたものは、委託している民間業者が収集して、再度分別されます。そこで、リサイクル業者が引き取れないものはここに戻ってきます。最終処分場に埋め立てられています。不燃ごみとして出されるものも同様です。以前は可燃ごみを燃やした後に出る焼却灰も埋め立てていましたが、平成14年からは全てリサイクルにまわし

えたり、不法投棄の取り締まりが強化されてきたことも処理量が増えている要因だと思われます。きちんとごみを出す人が増えたということかもしれません。

この施設でも、増減はありますが、年々ごみの量は増えています。内訳としては可燃ごみの増加です。そこで、焼却ごみを減らす取り組みとして平成21年度からは、大型のシュレッダーを導入して、以前は焼却処分していた個人情報などが含まれる紙類についても、リサイクルできるような体制にしました。また、今までは細かく破碎して焼却していた布団も、昨年の途中からはリサイクル業者に引き取ってもらっています。リサイクルできるものはなるべく焼却しないという方向性です。



年未年始以外、毎日16時間ごみを処理し続ける焼却炉。1日に44tものごみを焼却する